

令和元年度

施策評価表(平成30年度の実績評価)

記入年月日

令和 元 年 5 月 22 日

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	学校教育課	主管課長名	栗林 浩
2-1	施策名	学校教育の充実	関係課	教育指導課、生涯学習課、給食センター、幼稚園		

## 1. 施策の目的と成果把握

目	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
					見込値	実績値	見込値	実績値	見込値	実績値
的	園児 児童、生徒(幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校の児童生徒)	①児童数(小学生・義務教育学校前期生)	人	見込値	2,002	1,977	1,908	1,782	1,718	
					実績値	1,998	1,976	1,898		
		②生徒数(中学生・義務教育学校後期生)	人	見込値	1,143	1,087	1,063	1,039	1,042	
					実績値	1,133	1,064	1,055		
		③幼稚園児数	人	見込値	51	36	20	20	20	
					実績値	52	32	9		
	施策の意図	学力・心・体の調和の取れた人材が育まれている。	①学校が楽しいと思う児童生徒の割合	%	目標値	小:95.0% 中:86.0%	小:96.0% 中:88.0%	小:96.0% 中:88.0%	小:97.0% 中:90.0%	小:97.0% 中:90.0%
						実績値	小:99.0% 中:84.8%	小:92.7% 中:87.1%		
			②学力診断テスト結果(県平均正答率との比較)	%	目標値	小:+13.0% 中:+9.0%	小:+14.0% 中:+9.0%	小:+14.0% 中:+9.0%	小:+15.0% 中:+10.0%	小:+15.0% 中:+10.0%
						実績値	小:+14.7% 中:+1.9%	小:+11.4% 中:+5.1%		
			③体力テスト結果(県平均との比較)	%	目標値	小:+9.0% 中:+6.0%	小:+9.0% 中:+7.0%	小:+9.0% 中:+7.0%	小:+10.0% 中:+8.0%	小:+10.0% 中:+8.0%
						実績値	小:+11.3% 中:+5.2%	小:+8.9% 中:+1.3%		
④適正規模を維持できていない学校数			校	目標値	9	8	8	6	6	
					実績値	9	8			
成果指標設定の考え方	○学力診断テストの結果により「学力」を、体力テストの結果により「体」を、学校が楽しいと思うことは「心」をそれぞれ判断し、「学力・体力・心」の調和の取れた人材が育まれているかどうか判断する。									
成果指標の把握方法と算定式等	①学校が楽しいと思う児童生徒の割合は、学校評価アンケートより求める。②学力診断テスト結果(県平均正答率との比較)は、県学力診断のためのテスト結果より求める。③体力テスト結果(県平均との比較)は、体力・運動能力調査結果より求める。④適正規模を維持できていない学校数は、1学年1クラスしかない学校数。※児童生徒数は各年5月1現在の数値)									

## 2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)		
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
背景・要因	<p>①学校が楽しいと思う児童生徒の割合は、前年度からは低下したが、小・義(前期)学校で29年度のみ突出して高く、時系列に見ると若干向上傾向(H27~H30:90.4、90.4、99.0、92.7)である。中・義(後期)学校では、直近3年は向上傾向(H27~H30:87.0、83.4、84.8、87.1)である。全体的に高い位置で推移しているが、小・中とも横ばいか、やや向上傾向である。</p> <p>②学力診断テスト結果は、小・義(前期)学校で若干低下(+13.5、+13.4、+14.7、+11.4)、中・義(後期)学校は対前年は向上したが、全体では横ばい(+5.5、+3.6、+1.9、+5.1)である。</p> <p>①②について、30年度から義務教育学校が1校開校したが、今後は、義務教育学校の成果を検証しつつ、他中学校区の小中連携を進めることで児童生徒の生活・学習面での改善を図っていく。</p> <p>③体力テスト結果は、小・義(前期)学校でやや向上傾向であったが、30年は低下(+8.2、+10.5、+11.3、+8.9)、中・義(後期)学校も30年度は低下(+5.5、+5.1、+5.2、+1.3)している。今後、各学校において、遊びや体育の授業の工夫を通して改善を図っていく。</p> <p>④適正規模を維持できていない学校数は、平成30年から真壁小・紫尾小・桃山中が統合して桃山学園が開校し、適正規模でなかった紫尾小が廃校になったため1校減となる。</p>	
	2) 成果目標の達成状況	
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った
背景・要因	<p>①学校が楽しいと思う児童生徒の割合は小・義(前期)学校で目標値96.0%に対し92.7%で下回り、中・義(後期)学校は目標値88.0%に対し87.1%で若干下回った。</p> <p>②学力診断テスト結果は、小・義(前期)学校で目標値+14.0%に対し+11.4%、中・義(後期)学校は目標値+9.0%に対し+5.1%と下回っている。</p> <p>③体力テスト結果は、小・義(前期)学校で目標値+9.0%に対し+8.9%で若干下回り、中・義(後期)学校で目標値+7.0%に対し+1.3%で下回っている。</p> <p>④適正規模を維持できていない学校数は、目標値どおりとなる。</p> <p>・全体的に目標値を高く設定しているため、目標値を超える指標はほとんどなかった。特に中学校の値が目標値と差があるのが気になる。</p>	

## 3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
<p>○H30年度は、教育体制及び環境の充実に、重点をおいて事業を進めてきた。貢献度の高かった事業は下記のとおりである。</p> <p>・「少人数教育充実プラン推進事業」は、児童生徒一人一人に基礎的基本的な学習内容を確実に身に付けさせるとともに、自ら学ぶ意欲や態度を育成するため、少人数学級とチームティーチングによる小中義学校で実施することで、基礎学力の定着・向上を図るとともにいじめ等の問題行動や不登校など生徒指導におけるきめ細かな対応を行うことを目指す事業である。</p> <p>・「適応指導教室」は、不登校児童生徒を対象に、学校とは異なる場で人間的なふれあいを基盤とした小集団指導を通して集団生活への適応(自立性・社会的適応力・自立心の伸長)を促進させ学校へ復帰できるような援助を行う事業である。</p> <p>・「ICT技術を活用した英会話交流事業」は、29年度から開始し、友好都市のフィンランド/パウル市と市内小学校をスカイプ等で繋ぎ、英会話交流を行う事業である。30年度は2校。</p> <p>・「ヤマザクラの花咲く里事業」は、市内小学校等の児童を対象に、ヤマザクラの種がいから育成まで行うことで、市の資源・魅力の再発見と郷土愛を育む事業である。</p> <p>・「小中学校適正配置計画推進事業」では、保護者アンケートを実施し、策定委員会で検討された結果の答申を受け、第2次基本計画を策定した。</p>	<p>○30年度から義務教育学校が1校開校したが、今後は、義務教育学校の成果を検証しつつ、他中学校区の小中連携を進めることで児童生徒の生活・学習面での改善を図っていく。</p> <p>○第2次適正配置基本計画が策定され、今年度は各中学校で、基本計画の説明会を行っている。説明会での意見等をもとに、今後の実施に向けた検討を重ね、合意形成が図れた学校区から、準備委員会を立ち上げていく事になる。</p> <p>○「ヤマザクラの花咲く里事業」は、今年度で全ての市内小学校等で事業実施となる。ヤマザクラ保全計画の一環として行っている事業であるので、今後の展開について、ヤマザクラ課や関係機関と連携を取り進めていく事になる。</p> <p>○「ICT技術を活用した英会話交流事業」は、今年度3校目となる雨引小での開通となる。学校が固定しないよう、計画的に市内の児童が経験できるよう進めていく必要がある。</p>